

学校保健

THE SCHOOL HEALTH No. 187

(財)日本学校保健会

豊かな心を持ち
生涯を通して逞しく
生きる子どもの育成
—家庭・地域との連携を通して—
第40回全国学校保健研究大会の標語



会長に就任して

(財)日本学校保健会 会長 村瀬敏郎

平成3年5月29日、本会評議員会において再び会長に選出いただきましたことを光栄に存じております、と同時に責務の重大さを痛感いたしましたしております。

学校教育の原点は「豊かな心を持ち、たくましく生きぬく人間の育成」を図ることであり、学校保健はその中核をなすものであると考えます。

学校保健の活性化こそ今求められている最大の課題であり、直接子どもの育成にあっている我々の役割であり使命であると思います。

そのため、今回は本会の財政基盤の安定を目指し努力いたしました。都道府県並びに十二大都市学校保健会のご協力により曙光をみることができました。深くお礼申し上げます。なお脆弱な本会の財務について、可能な限り改善の努力をいたす決意であります。

一方、本会が行ってきた学校保健の実践研究は、センター的事業を主軸にしてスクーリングから疾病を持つ児童生徒の個の管理にまで内容が深められています。しかし、数年来提唱されてきた「こころの健康」というテーマは、学校保健現場での実践がいまだしの感を深くします。学校を取り巻く家庭・地域・関係機関が一体となって取り組む「地域に根ざした学校保健」をこれからの課題と考えたいと思っております。

今年は奈良県のご尽力により第41回全国学校保健研究大会を開催いたしますが、皆様が日頃ご研究された成果を拝聴することを楽しみに致しております。

皆様のご活躍を期待して会長就任のご挨拶といたします。

目次

中学校の保健指導の重点…	2
問題行動と保健指導 …	3
性に関する指導事例 …	4
Q & A	
受験期の健康管理 …	5
北から南から …	6
保健会だより …	7

会報をよくするため、読者のご意見を求めています。お菓書をお寄せください。

中学校の保健指導の重点

横浜国立大学 教授 齋 藤 歎 能

健康、安全で幸福な生活を営む能力と態度を養い、心身の調和的発達を図ることは、中学校教育の重要な目標となっている。中学校の保健指導は、この目標にそって、現在及び将来において生徒が直面する様々な心身の健康に関する問題に適切に対処し、健康な生活が実践できる能力や態度を養うことを目標にして行われるものである。

中学生期は、心と体のバランスがくずれやすい時期である。そのため、中学生の心身の発育発達が望ましい方向にむかうような指導をすることが大切であると同時に、発育発達を阻害する諸要因を生徒自身が自立的に排除していこうとする積極的な態度を育成することが必要である。中学生期に多い疾病や事故災害を防止したり、中学生期に陥りやすい非社会的行動や反社会的行動の芽を早期に発見してこれらを摘みとり、身体的にも、精神的にも、社会的にも健康な生活が送れるような保健指導が必要となる。

現在、中学校の保健指導で重点となるものは、次のようなものである。

心身の発達の指導

身体の形態的発育に比較して、運動機能の発達など体力の相対的な低下を指摘されてから久しいが、現在でも多くの中学校で体力づくりが盛んに行われている。その原因は社会の生活環境の変化による運動不足が大きく起因している。中学生期は形態、内臓諸器官、筋力などが著しく増加するが、それに伴って運動能力が発達する時期である。したがって、多くの運動を経験させて、総合的な体力の向上をはかることが必要である。

このように、中学生期には、心身の発達が著しく、体格や体力も向上するので、運動が心身の健康に与える影響を正しく理解して指導を行わせるようにしなければならない。特に、中学生期には、精神的にも不安定な時期であるが、運動が日常生活に伴う緊張をやわらげ、落ちつきを取りもどし、心にゆとりをもたせるなど精神面の安定に役立つとともに、運動によって互に協力し、助け合うなど社会生活に必要な態度を養うこともできるので、きわめて重要である。

栄養と食生活の指導

栄養と食生活に関連する問題点としては、偏食、生活リズムの乱れ、欠食、加工食品消費の増大、運動不足、肥満などがあげられるが、その大部分は社会生活の工業化や近代化に伴う生活環境の変化によ

るものである。

中学生期には食物の摂取量は、生理的に増加をするが、現在の飽食の時代に加え、非活動的な生活や運動不足などによって肥満が増加している。また、特に女子は自分の容姿などを気にするあまり、必要以上にやせたところに標準をおき、美容上の理由により減食をし、極度のるいそうが見られることもある。半面、国民栄養調査の結果をみても、最近のグルメブームを反映して脂肪分の摂取量の上昇、食塩の取り過ぎ、カルシウムの必要量の不足などが指摘されており、中学生期から栄養の取り方と食生活の指導が必要である。

問題行動とその指導

中学生期の問題行動としては、喫煙、飲酒、怠学、薬物乱用、暴力、家出、登校拒否など多くのものがある。これらの問題行動は、中学生期においてますます増加の傾向にあり、しかも、極めて複雑化し、多様化しており看過できない問題となっている。

中学生期という発達段階をみると心と体のバランスがくずれる時期であり、すべての生徒が問題を内臓していると理解できる。そのため、すべての生徒が指導の対象となることを念頭に入れ生徒の実態を把握するとともに、問題行動の予防や早期発見、早期指導を進めていく必要がある。近年の刑法犯の年齢別の構成をみても、中学生期の少年の増加によって問題行動の低年齢化が一層顕著になっており、中学校における保健指導において特に重視させる項目である。

性に関する指導

中学生期は二次性徴発現の最盛期であり、心身の変化の最も大きい時期である。この時期に正しい男女の生理的違いとそれに伴う心理的違いを理解させ、自己の性を見つめさせ、男女の人間関係のあり方の基礎を身につけさせておくことが必要である。

特に、中学生期の性非行は著しい増加の傾向にあるが、その背景としては、性情報の氾濫、解放的な性意識、性的早熟化の傾向と精神面の未発達をあげることができる。しかも、性非行の最近の傾向をみると、低年齢化の傾向、攻撃型から遊び型への移行、女子の性非行の増加、中学生の売春の増加などがみられ、保健指導の大きな課題となっている。

このような生徒の健全な発達を妨げる事柄に対して、積極的に保健指導によって、心身ともに健康増進をはかることが中学生期において重要となる。

問題行動と保健指導

(財)日本中学校体育連盟 常務理事 松本 國夫

● 自我の目ざめ

中学校期は自我の目ざめの時期であることから、感情の起伏も激しく、主体性を確立する過程で、心の不安定や、さまざまな悩み、問題が生じてくる。

しかし、家庭環境、生育歴、人間関係、規範などによって、自己の課題解決が困難な生徒もおり、心身両面の問題を持ち、特に問題行動に走る生徒がいる。

また、問題を持つ生徒は、健康問題を内在させていることが多い。そのような生徒に対しては、生徒指導や学習指導上特別な指導が必要となってくる。

問題行動を大別すると反社会的行動と非社会的行動に分けられるが、ここには「中学校保健指導の手引」に収録されたなかから、関連する事項について抄訳して述べる。

● 健康な生活習慣に問題がある生徒

① 生活のリズムに乱れが考えられる生徒

自律神経失調の症状から不規則な生活をくり返す。薬に頼らないで解消するよう指導していくことが望ましい。

② 食事の仕方に問題がある生徒

思春期にみられる異常な食事のとり方、特に拒食症の場合、専門医の治療が絶対必要であるが、家族が事の重大さに気付くことが遅いだけに、学級担任の働きかけが重要である。

一方、炭酸飲料の飲み過ぎ、カップラーメン等ですませる安易な昼食、間食の過多等は、健康習慣改善の指導として、徹底する。

③ 知らなかったでは遅い = タバコの害 =

喫煙・禁煙をめぐる問題は、今や世界的な問題であり、喫煙年齢の低下や、若年女子の喫煙者増加が問題となっている。

特に成長期にある中学校期の健康を考える上で、看過することのできない問題である。禁煙教育は、集団指導と個別指導との系統的な計画で、学校全体

で取り組むことが重要であり、保護者の協力を求め、個別指導を継続することが必要である。

④ 知るほどに増す恐しさ = シンナーの害 =

中学生の心と体をむしばむ、シンナー等有機溶剤の吸引の誘惑に負けず、興味本位の行為に走らない意志の強い中学生を育てる。

⑤ こわい急性アルコール中毒 (略)

⑥ からだをむしばむ麻薬・覚せい剤 (略)

● 問題行動と保健指導

問題行動からの立ち直りは、生徒自身が問題行動の重大さを認識し、望ましい行動化ができることである。

しかし、一度問題行動に走ると本人の意志に関係なく、周囲の環境に支配され易く、早急な立ち直りは難しい。

保健指導の面からは、集団指導の面からと同時に、個別指導を徹底していく必要がある。

個別指導の実施にあたっては、学年・学級担任と、保健指導関係者、教育相談担当者らが十分連携を取り、指導の過程で協議するなど校内システムを整備しておくことも重要である。

生徒とのラポール形成 (心が開かれ通じあうこと) が先決

- 学級担任
 - 養護教諭
 - 担任以外の教師
 - 教育相談担当
 - 生活指導担当
 - 学校医
- } — 相談機関 — 保護者

「中学校保健指導の手引」 (財)日本学校保健会
引用ページ：88,92,96,153, 154, 156, 182

性に関する指導事例

基本は献身と豊かな心

横浜市立旭中学校 学校医 竹 田 隼

『性』への憧れと希求は、人類にとっても永遠の課題に違いない。何故ならそれは“種の保存、発展、淘汰”に直接的に関わるものだからである。

試みに或る種の霊長類（ヒヒ）の生態をみると、若い牡はしばしば群のボスに挑戦して敗れるが、その後力と知恵を蓄え、群のリーダーとしての実力を得た時にはじめて勝利を納めボスの権威と“生殖し得る立場”を持つ。これこそ優者生存の自然の法則であろう。

人間は現在、発展した社会に生きていけるけれども、基本的には自然の法則下にあると思われる。それゆえ“少年・少女はそれぞれ、十分に子孫を育て得る（責任能力を持つ）までは、種の保存（生殖活動）に立入るべきではなく、自己が十分成長してはじめて健全な性生活を営むべきである”ということになる。

ちなみに日本人の出生率の低下が“民族の危機”として扱われている現在、学校保健関連において性に関する指導がどのようにあるべきかを考えてみたい。

「中学校保健指導の手引」から

この手引書によれば、1.性に関する問題行動とは『性非行として広く性にかかわる非行を総称する場合、あるいは性道徳に反する行為』を指したりする、とあり、2.性に関する問題行動をもつ生徒の増加の背景は、i) 性情報の氾濫、ii) 解放的な性意識、iii) 性的早熟化の傾向と精神面の未発達、とされている。

現場での性教育例など

上記手引書にある原則的な考え方はまさに的を得たものと思われるが、次に現場での事例をもとに考察してみたい。

1. 基本的な教育

- 1) 身体的な二次的性特徴発現への理解。
- 2) 将来、社会的に責任ある人間として生きるための条件。(両性の特質など)
- 3) 生命誕生についての神秘性と尊厳を考えさせる。
実例…受精卵が分裂をくり返して次第に生物の形をとり、動きをともなう時期のビデオ等を生徒に見せ“妊娠中絶”はここで生命を奪うことであると説明すると『可愛そうだ』という声が返ってくる

etc.

- 4) それぞれの性に関する基本的価値観の確立。
- 5) 基本的な自尊心(自己の能力に自信を持つ)を、言葉だけでなく日常を通じて養成する。これがあれば、将来性的にも暴走しないであろう。

2. 行動規範を決定するために

- 1) 性に関する正しい認識。不確実でしかも興味本位の性情報の氾濫などによる、無責任な快楽観、結果無視などを是正し、正しい認識を教える。
- 2) 行動様式の違いと自制。少女は寄りそう、ささやく等のムードに浸ろうとするが、少年には突然の性行動に出る傾向があつて、その認識の誤りから思わぬ結果を招来する。それを防ぐための自制、性のモラルなどが大切である。

3. 低年齢での性行為の悲劇

- 1) 異性関係が永続しない。
- 2) 結婚出来ない。
- 3) 思春期に育児能力は未だない。
- 4) 妊娠中絶は精神的な傷、および肉体的な後遺症を残す。中学生、高校生での妊娠中絶では手術事故がしばしばある。また初めての妊娠を中絶すると子宮内膜の損失がつよく、将来の不妊、卵管妊娠の原因となり得る。
- 5) 勉強と育児とは両立できない。
- 6) 高校を中退すると将来に影響するのでは…等々

4. 結婚の条件を教える

- 1) 正しい結婚の幸せな例を見せてやる。
- 2) 真の“愛”には献身が必要である。何故なら性による牽引力は瞬間的なものでしかないが、献身は長く続き人間性を高める。
- 3) 優れた子孫を残すためには、愛情豊かで平和な家庭環境を両性の協力と献身によって作る必要があり、そこで初めて母性の安定も得られる。
- 4) 幼い頃に豊かな愛によって育てられた子供は、成長してからも人格的に安定し、幸福な結婚生活を営むことが可能で、よりよい種の保存という歴史的使命を果すことが出来るに違いない。

◎以上、「中学校保健指導の手引き」、教育現場からの記録等をもとに考察しました。

Q&A - 学校保健活性化のための -

Q 受験を控えている児童、生徒は心身ともに疲労ぎみとなります。受験期の健康管理はどんな点に気をつけたらいいでしょうか。

A.....日本医師会広報委員 杉浦 稔

健康管理のポイント

受験期に限らず学業、休養、食事、睡眠のリズムがポイントとなる。受験期では学業に多くの時間とエネルギーを使う。従って休養のとり方、食事のバランス、睡眠時間の配分に気をつけたい。

勉強も長時間にわたり続けると、かえって能率が上らない。疲労を感じたら少し横になり、冷たいタオルなどで目や頭を冷す。5分位休んだら、軽い体操か、外に出て5分位ジョギングをする。そしてまた机に向う。

食事は良質の消化の良い食品を、バランス良く少な目にする。勉強に気が乗っているときは多少食事や睡眠の時間のずれは気にしない。しかし、1日3回の食事の回数が必要だ。目ざましのコーヒーや茶は飲みすぎないほうがいい。

睡眠は6時間あれば十分と自分にいいかせる。小学生の場合は8時間を目安としたい。

個人差があること

一人ひとりの健康状態や家庭環境は、十人十色である。ひとつの方法を押しつけないこと。前述したことは単なるモデルと考えて、自分の経験、友人の方法などを参考にさせ、自分のライフスタイルとしての勉強法を工夫させる。夜型の人間に無理に朝型に変えてもリズムが乱れるだけとなつては、受験期には良くない。

毎日目標を見つめさせる

人間の体は気だ張っているときは病気になるものである。中国の宗教哲学である道教では“気”とは生命の源という意味で、陰陽の調和がとれているときを元気、調和が乱れたときを病気といった。

精神的に調和がとれる状況を作ることが良いと思う。それには自分の希望する学校へ合格するために努力をする、という目標を毎朝、自分にいいかせる。あるいは就寝する前に反省させることは受験生活に効果がある。

受験期のスタミナ作り

苦しい勉強に負けない心と体のスタミナ作りはどうか。これは受験期に入って準備したのでは遅い。やはり学校生活全般を通しての保健教育が必要である。生涯にわたつての気力、体力のある人生の基礎作りは入学したときから始まる。

とはいつても、もうすぐ試験だ、という2週間位前になったら、夜型だった人には、やはり朝型にして試験に備えたい。試験は朝から始まるから体を慣らすことが必要だ。甲子園の高校野球でも朝8時からの試合のときは午前4時前に起きて練習するという。

受験生というチームを率いる監督としては一人ひとりの個性を理解し、試合に臨むつもりで指導すれば、悔のない受験期を過ごすことができると考える。

虎の門(10)

愛とインプリンティング

動物行動学の研究者として著名なコンラート・ローレンツはインプリンティング(刷り込み現象)といわれる“概念”を発見している。その有名な実験によると『生まれたばかりのアヒルの子の前で長靴を動かすと、(アヒルは最初に見た動くものを)親だと思ひこみ、その後を追って歩いて行く』のである。

これが“刷りこみ現象”であり、人間の場合もこれに似た系路、すなわち“幼児体験の重要性”が考えられる。

たとえば、人間性を信じ、また現実に堪え得るということは一つの精神的な資産であろうし、また子供が成長した時、豊かな性生活を営み得るかどうかということもまた、精神的(肉体的でもあるが)

資産であろう。そしてこれらの資質は幼い時代に、母の豊かな愛に触れることによって育つとされ、その母の心は夫との大らかで豊かな家庭生活によって安定するといふ。そして、これこそが人間史としてのよりよきインプリンティングであるに違いない。

編集委員 竹田 鎧

北から南から

もっと気楽にシェイプアップ

東京都奥戸中学校 養護教諭 宮野 茂子

肥満指導に本格的に取り組み始めたのは、2年前。年々の増加傾向に加え、この年の入学生で学校全体の肥満割合が一挙に2倍にも膨らんだことが使命感をかき立てた。「自尊心が芽生え始めている中学生に効果のあがる指導が出来るだろうか」と不安も大きかったが、保健主事や関係の先生にも相談し意見を聞いてみた。そして、ついに職員会議で肥満予防の必要性について話し、全職員共通理解の上で放課後30分のShape時間を設定することとなった。

身体計測と間食・栄養バランス指導を週1回。なわとび・ジョギング・ストレッチなどの運動を週4回。学校の周囲を散策したり、景色を見ながらのジョギングコースを2ヵ所決めた。なわとびは学校前の空き地を利用し跳んだ回数がひと目でわかるとび縄を各自が持ち、結果を記録し励みにした。

指導資料として「Shapeだより」を発行。これによって家庭へ活動の様子を知らせるとともに家庭との連携も図った。

Shape活動を始めて2ヵ月目頃から体重の減少していく生徒が見られ、6ヵ月目には

- 6 kg 1人、- 4 kg 3人、- 2 kg 2人、
- 1 kg 3人、増減無 1人、+ 3 kg 1人

という結果だった。肥満度が軽度であるほど成果は大きく、精神面の強さも結果に大きく影響していた。

羞恥心を配慮し、主に外で活動していたが寒い季節になり活動の場を体育館に変えた。ある日、心無い生徒に「ブタの集団」と言われたらしい。彼女らは体育館で運動するのを嫌がった。

こうして、結局大切な時期の指導が行き詰まり挫折してしまった。

一年目の実践から私なりに反省してみると

- ① シェイプ運動が強制めいていて楽しさに欠けていたのではないか
- ② 周囲の生徒への指導が不足ではなかったか
- ③ 自我の芽生える時期。周りを気にせず活動できる場所を確保するべきではなかったか

また、私自身にも「肥満指導は成人病予防」と肩に力が入り過ぎていたような気がする。

今年度のShape活動は空き教室を一つ確保し、先生方の協力も更に得られそうである。もっと気楽に「継続は力なり」を合言葉に楽しみながらShape活動をやってみようと思う。

生涯教育の観点から見ても、中学生年代にしっかりとした自己の健康状態コントロール能力を育成するための体験をさせておくことの重要性を、ことさらに強く実感しながら執務計画を練っているこの頃である。

高校生の成人病予備軍

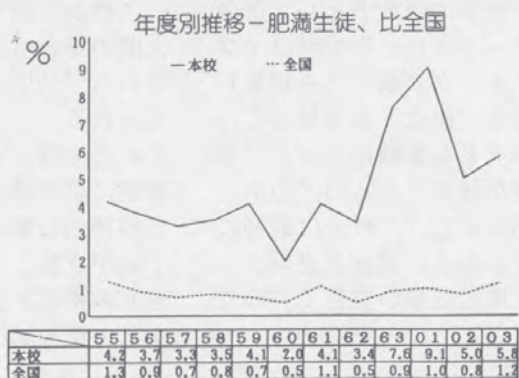
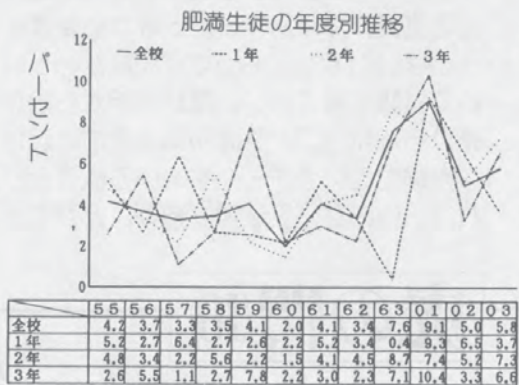
宮城県石巻高等学校 養護教諭 大槻 和子

本校は男子だけの普通高校で、在籍792名、例年95%以上の生徒が大学進学を希望しています。ここ数年、肥満の生徒が増加し、10年前の2倍近くとなっています。また、全国の男子生徒との比較でも、グラフでもわかるように4倍強となっています。1年生に多いのは受験勉強に伴う運動不足と考えられます。

昨年、肥満傾向の生徒たちに、アンケートをとりましたが、運動は好きは4割弱、嫌いが6割強となっており、肥満になると体を動かすのも億劫になるので悪循環になっているものと思われます。学童期からの肥満はその60~80%が、大人の肥満になる傾向があるといわれ、小学校期からの指導を痛感しています。

本校では肥満度40%以上の生徒については校医とタイアップして、コレステロール・中性脂肪・血圧検査・食事指導など個別的に指導しており、卒業していったS君など「先生着る服なくなった、みんなガフガフ」とゼスチャたっぶりの嬉しい悲鳴でした。肥満については、本人の自覚と努力、家庭の協力が何よりも大切なことはいまでもなく、これらは食生活に起因しているとよくいわれますが、社会全体の問題ではないかと思えます。

清涼飲料水による糖分の過剰摂取や、テレビゲーム・ファミコン等に興じて運動不足など、まさにからだの危機が迫っているといえましよう。



日本学校保健会だより

財団法人 日本学校保健会

平成3・4年度 新役員決まる

平成3年5月29日(水)に開催された本会評議員会で、
下記のように選出されました。

会 長 村 瀬 敏 郎
副 会 長 矢 野 亨 藤 戸 孝 純
加 藤 増 夫 松 尾 学
専務理事 和久井 健 三

学校保健センター的事業企画運営委員長

和久井 健 三

理 事 吉 田 信 沖 津 貞 夫

本 吉 鼎 三 和久井 健 三

○宮 川 糧 平 藤 田 幸 雄

前 川 修 白 木 彌 一 郎

西 祥 太 郎 藤 原 弘

清 藤 幸 男 櫻 井 日 出 生

川 口 良 平 松 田 一 夫

○下 田 巧 ○江 口 篤 寿

吉 田 瑩 一 郎 有 山 雄 基

○青 木 宣 昭 長 屋 幸 郎

古 賀 慶 次 郎 ○木 村 慎 一 郎

西 連 寺 愛 憲 ○種 村 玄 彦

飯 森 関 男 ○石 黒 健

吉 村 英 雄 ○壺 井 忠 雄

○安 藤 志 ま 屋 田 直 勝

○印は、常務理事

監 事 阿 部 信 夫 佐 藤 裕 一

木 戸 口 裕
顧 問 渋谷 敬 三 柳 川 覚 治
関 口 龍 雄 山 中 正 一
小 栗 一 好

計 報

本会 常務理事 榊 田 桂 殿(横浜
市医師会名誉会長)には、平成3年5月16日
(木)逝去されました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

本会 顧問 岩 尾 泰 次 郎 殿には、平成
3年5月22日(水)逝去されました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

新刊ご案内

◎ 中学校 保健指導の手引 第一法規
一学級担任のためにー B5 P200 2,000円
中学校の保健指導の計画作成・展開・評
価の方法等。

◎ 腎疾患児 管理指導のしおり
(学校・校医用) 2色 55円
腎疾患児管理指導委員会
(委員長 北川日本大学教授)
尿異常の子どもをどう受けとめるか。腎
臓病管理指導表の見方。管理の実際につ
いて。



アウトソール ミッドソール 中 敷
(ラバー) (衝撃吸収材) (ラバースポンジ)

三層式ソール

教育(呼吸・吸圧)シューズ

日本学校保健会推薦 No. 817号

JESに学問を!

科学された教育(吸圧)シューズ!



日本教育シューズ協議会 TEL(0862)72-5463

健康へのひと粒 歯・骨を丈夫に…

ビタミンADを含んだ… 服用しやすい
ゼリー状ドロップ剤



カワイ肝油ドロップ

河合製薬株式会社

〒165 東京都中野区新井2丁目51番8号
電話 03(3385)3111~7

発行 財団法人日本学校保健会 村瀬 敏郎 〒105 東京都港区虎ノ門2-3-13 第18森ビル 電話(3501)3785・0968 振替口座 東京4-98761 頒価1部100円(送料共)

学童の集団検診にお選びください。



尿中白血球反応をプラスしたエームスの尿検査試験紙



エームス尿検査試験紙 尿中pH・ブドウ糖・蛋白質・潜血検査用
ヘマコンビスティックス®

尿中pH検査用医薬品

エームス尿検査試験紙 尿中ブドウ糖・比重・pH・潜血・蛋白質・潜血検査用
ネフロスティックス-L®

尿中pH検査用医薬品

マイルス・三共株式会社

東京都中央区銀座1丁目9番7号

販売元: 三共株式会社

東京都中央区銀座2丁目7番12号 〒104 ☎(03)3562-0411

お問い合わせコーナー

☎0120-123119

製法に関するお問い合わせはマイルス・三共にお問い合せコーナーへ(料金は無料)平日9時~17時

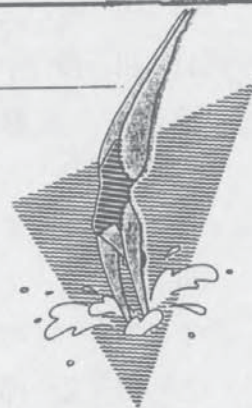
JU1390-S

プール用殺菌・消毒剤

ネオクロール

四国化成工業株式会社

東京本社 大阪支社 福岡営業所 名古屋営業所 徳島第2工場
0472(96)8181 06(251)4111 092(431)4111 052(211)4111 0886(98)4111



プール水等の殺菌・消毒剤 **CALCIUM HYPOCHLORITE**

トヨクロン®

トヨクロンは有効塩素70%の次亜塩素酸カルシウムです。
グラニューラーとタブレットがあり、用途に応じて使い分け
ができます。

東ソー株式会社

ファインケミカル事業部
TEL03(3585)9912

手を洗うと、殺菌・消毒も同時にできる!

シャボネット®石鹸液

多人数でお使いになるときは、連結式手洗い装置をご利用ください。

日本学校保健会 推せん品

サラヤ株式会社 ☎(06)797-2525

東京サラヤ株式会社 ☎(03)3472-1521

〈本会報は、拠出金と、本会への(財)日本船舶振興会助成金により作成しました〉